

この学校にわたしたち

2022. 09. 12 N027

「はやぶさ」式思考法…



インタビューを聞いているとたまに、「100点満点の出来でした」などの言い方を耳にすることがあります。この言い方が悪いということではありませんが、この発想、考えると「減点法」に基づいていることに気が付きます。競技の大会に結果を残した人が使うのはもっともなことかもしれない…学校もこの価値観に基づいていることが多いと思います。

私たち日本人は「上限を設けて生活をしたがる」と小惑星探査機「はやぶさ」計画を指揮した宇宙航空研究開発機構の川口淳一郎教授は言います。教授は新しい試みに挑戦するなら、減点法より加点法を、すなわち”失敗を数えるより成功を数えよう”と語っています。実際、はやぶさは、数多くの失敗を乗り越え、成功を勝ち取り、私たちに感動を与えました。例えば、4基のイオンエンジンが全て寿命を迎えてしまった際、まだ正常に働く部分をつなぎ合わせて一つのエンジンとし、危機を打開しました。月以外の天体から物質を持ち帰るという世界初の偉業の価値は、「減点法」ではおそらく生まれなかったでしょう。失敗を嘆くよりも「きょうは、これができた」と振り返り、たとえ小さな一歩でも、その一歩の前進をたたえ合い、そこから明日へのエネルギーが生まれるのだと思います。私たち大人も子どもも人間です。完璧はありません。できないこともうまくいかないことも、私たちの周りにはたくさんあります。特に子どもたちの世界はそうでしょう。「今日は、これができた」と振り返る。そして、その小さな一歩をみんなでたたえ合う、学校・教室・教室がそんなところでありたいと思っています。

図書室に88冊の本が入りました！

教育関連団体から図書費補助をしていただき、休み中に88冊（ハッ山小だけに8月2つで88冊…偶然ですが。私の誕生日は8月2日。ハッ山小にご縁があったのですね。）の新しい本が入りました。秋は「読書の秋」とも言われます。小学校時代にどれだけ本に親しんだかが生涯読書量にも関係するとも言われます。どんなジャンルの本でも構いません。読めば読め程、知識が豊富になったり、想像力・心が豊かになったりします。知識と知識がつながるとさらに新たな発見につながり、楽しくなります。ぜひ、図書室に足を運んでくださいね。

